

コード No. 10017

**Anti-Human
14-3-3 τ Protein (33A) Mouse IgG MoAb**容量 : 200 μ g

はじめに : 14-3-3 タンパク質は細胞内に豊富に存在する分子量約 28kDa の二量体タンパク質で、酵母や植物からほ乳類に至るまで高度に保存されたアミノ酸配列を持っています。14-3-3 タンパク質は 7 種のアイソマーとして、 β (ベータ), γ (ガンマ), ϵ (イプシロン), ζ (ゼータ), η (イータ), σ (シグマ), τ (タウ) が存在し、それぞれ、細胞内でのシグナル伝達に深く関わっているといわれています。また、14-3-3 タンパク質は、Creutzfeldt-Jakob 病 (CJD) 患者の脳脊髄液に著明に増加するタンパク質として注目されています。さらに、CJD 患者だけでなく、中枢神経症状を伴う HIV 患者の約 60% の脳脊髄液に 14-3-3 タンパク質が検出され、正常人では全く検出されないことも報告されています。

免疫抗原 : Human 14-3-3 τ (Sf21) のリコンビナントタンパク質

起源 : マウス \times マウス ハイブリドーマ (腹水)
(X63 - Ag 8.653 \times BALB/c マウス脾臓細胞)

クローン名 : 33A サブクラス : IgG2a

精製方法 : Protein A 精製

包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN_3 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加 (この時濃度は 200 μ g/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2~8 $^{\circ}\text{C}$ 保存 5 年間安定
溶解後 -20 $^{\circ}\text{C}$ 保存 2 年間安定

使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 1~2 μ g/mL にて使用可能
(ホルマリン固定、パラフィン包埋切片マイクロウェーブ処理 (10 mM クエン酸緩衝液 pH 6.0, 10 min))
: ウェスタン・ブロッティング 1~5 μ g/mL にて使用可能

特異性 : Human 14-3-3 τ 100%
Human 14-3-3 β <0.20%
Human 14-3-3 γ <0.10%
Human 14-3-3 ϵ <0.10%
Human 14-3-3 ζ <0.39%
Human 14-3-3 η <0.10%
Human 14-3-3 σ <6.25%